

人権とハンセン病問題を 考える教育セミナー

～各地の実践活動から学ぶ～

無料

定員200名

日本では、ハンセン病患者の方々や家族が約90年もの間、差別を受け、苦しんできた歴史があります。二度とこのような歴史を繰り返さないため、教育現場における人権に関する授業実施の一助となるよう、ハンセン病問題の真実を伝え、ハンセン病や隔離生活の歴史的経過、その偏見と差別等について理解することにより、人として思いやりのある心を育むため、本セミナーを開催します。

事前申込は不要で、どなたでもご参加いただけますので、ぜひご来場ください。

日時：平成27年1月9日(金) 14時00分～19時00分
開場 13時30分

場所：アスティ45ビル 16階 大研修室1614
札幌市中央区北4条西5丁目

■模擬授業「ハンセン病問題を考える授業の展開について」

講師：手嶋 和之氏

(ハンセン病問題を核にした「人権教育」啓発テキスト作成委員会委員長)

佐久間 建氏

(都立武蔵台学園府中分教室ひだまり学級教諭)

■グループワーク

「ハンセン病問題を含む“人権教育”を教材化する」

講師：延 和聡氏

(学校法人盈進学園盈進中学高等学校(広島県福山市)教頭)

■シンポジウム

「ハンセン病を風化させぬために人権教育に期待するもの」

コーディネーター：手嶋 和之氏

シンポジスト：佐久間 建氏

島田 度氏 (札幌弁護士会)

山本 真帆氏 (慶應義塾大学総合政策学部2年)

■講演「ハンセン病問題の現状と次世代に伝えたいこと」

講師：藤崎 陸安氏

(全国ハンセン病療養所入所者協議会事務局長)

主催：北海道 北海道弁護士会連合会 札幌弁護士会 北海道はまなすの里

問い合わせ先 北海道保健福祉部健康安全局地域保健課 感染症・特定疾患グループ

TEL：011-231-4111(内線:25-531)

ハンセン病とは・・・

ハンセン病は、明治6年にノルウェーの医師アルマウエル・ハンセンが発見した「らい菌」による感染症です。

現在では、有効な薬剤を使うことにより、確実に治療ができ完治する病気です。

また、「らい菌」は感染力が極めて弱く、現在のような社会環境のもとでは、ほとんど発病しません。

しかし、社会からハンセン病患者を強制的に隔離してきた行政の政策は、社会全体にハンセン病に対する誤った偏見や差別を植え付けました。

各講師の略歴

講演講師 藤崎 陸安(ふじさき みちやす)氏

1943年秋田県生まれ 1952年に青森県国立療養所入所

1964年から全国ハンセン病療養所入所者協議会及び
自治会役員として活動

2010年より全国ハンセン病療養所入所者協議会事務局長

手嶋 和之(てしま かずゆき)氏

北広島市立広葉中学校教諭

ハンセン病問題を核にした「人権教育」

啓発テキスト作成委員会委員長

佐久間 建(さくま けん)氏

都立武蔵台学園府中分教室

ひだまり学級教諭

延 和聰(のぶ かずとし)氏

学校法人盈進学園盈進中学高等学校

(広島県福山市)教頭

ハンセン病市民学会運営委員

ハンセン病市民学会教育部世話人

島田 度(しまだ わたる)氏

札幌弁護士会人権擁護委員会・

法教育委員会各委員

たかさき法律事務所

山本 真帆(やまもと まほ)氏

2013年3月盈進高等学校卒業

慶應義塾大学総合政策学部2年

人権とハンセン病問題を考えるパネル展

日時：平成27年1月8日(木)から10日(土)まで

場所：札幌駅前通 地下広場 (さっぽろ・ちかほ)
イベントスペース

内容：国立ハンセン病資料館所蔵パネル等の展示